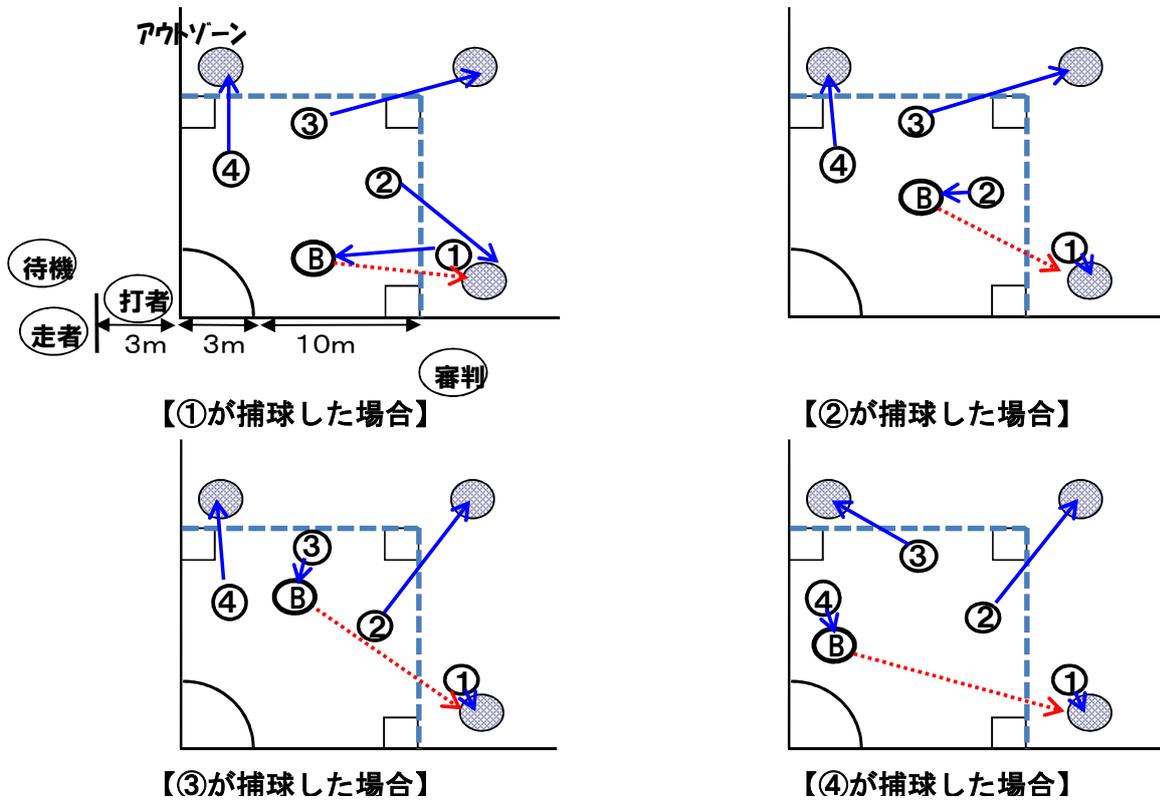


4対4内野関係ゲーム（手投げ）

ねらい	内野の動きを理解し、内野の連携プレーをする技能を身につける。
時間	10分間
準備	バッティングティー、ティーボール、バット、塁ベース、フラフープ（アウトゾーン用）、ビブス、（得点板）

図中の記号： ○ 守備者 ⊙ B ボール → 人の動き - - - → ボールの動き



やり方	<ol style="list-style-type: none"> ① 攻撃は、打者→走者→審判→待機の順でローテーションする。 ② 4人が1回ずつ投げたら攻守交代。1イニングを行う。 ③ 打者は、ゲーム中にボールが飛ぶコースを考えて、意図した場所に手でボールを投げる。 ④ 走者は1塁、2塁、3塁の順に走る。 (3塁まで／打者走者分離／残塁なし) ⑤ 守備者はボールを捕ったら、走者より先のアウトゾーンにボールを送球することで進塁を阻止する。 (守備者は、ボールが打たれるまでは定位置にいること。) ⑥ 進塁できた塁までを得点とする。 (最初は得点を競わず、内野の連携プレーの確認を重視し、慣れてきたら、得点を競い合ってもよい。)
-----	---

「4対4内野連係ゲーム（手投げ）」の説明

1. 準備

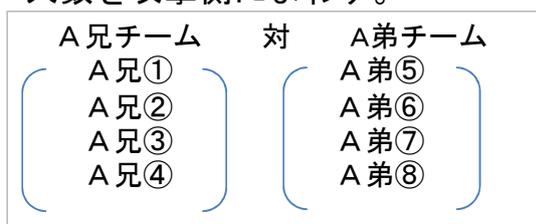
バッティングティー、ティーボール、バット、塁ベース、フラフープ（アウトゾーン用）、ビブス、（得点板）

2. 「4対4内野連係ゲーム（手投げ）」の進め方

- ①これから、チーム内の兄弟チーム同士で4対4内野連係ゲームを行います。
- ②攻撃側は、打者→走者→審判→待機の順でローテーションをします。
- ③打者は、ゲーム中にボールが飛ぶコースを考えて、手でボールを投げ入れます。
- ④走者は、打者がボールを投げ入れたら、1塁、2塁、3塁の順に走ります。（3塁まで／打者走者分離／残塁なし）
- ⑤守備者はボールを捕ったら、走者より先のアウトゾーンにボールを送球することで進塁を阻止します。ただし、走者が1、2塁間にいるときに、3塁のアウトゾーンに投げるだけでは、走者は2塁まで進塁することができます。（守備者は、ボールが打たれるまでは定位置にいること。）
- ⑥捕ったボールは直接アウトゾーンに持ち込むことはせず、必ずアウトゾーンに移動した他の守備者に送球することとします。また、ノーバウンドでボールを捕ったら0点ですが、必ず近くのアウトゾーンに送球することとします。
- ⑦進塁できた塁までを得点とします。（最初は得点を競わず、内野の連係プレーの確認を重視し、慣れてきたら、得点を競い合ってもよい。）
- ⑧4人が1人1回ずつ投げたら攻守交代し、1イニングを行います。（守備パターン4種類の全て練習できるように、意図的に投げる。）

※いろいろなポジションを経験できるように、1時間ごとに図①→②→③→④の順で守備位置をローテーションをする。

※母体となるチームが8人未満の場合は、守備者を常に4人確保し、残り的人数を攻撃側にまわす。



【発展】

- ・「手投げ」を「バット打ち」にする。そのときには、思い切り打つことよりも、ねらったところに打って連係プレーの練習ができるようにする。